

## 日本腎・血液浄化 AI 学会会誌投稿規定

1. 本誌は日本腎・血液浄化 AI 学会の機関誌として年 1 回以上発行する。
2. 投稿者（共同著者を含む）は本学会員または、その構成員とする。ただし、編集委員会が依頼や承認した場合はこの限りでない。
3. 本誌の内容は総説、特集、原著、症例報告、その他とする。
4. 原稿はホームページより投稿する。  
(<https://www.jainbp.or.jp/>)
5. 投稿論文は、編集委員会の指定する査読者による審査を経て、その採否と順位を編集委員会で決定する。なお、投稿論文においては個人情報観点から、たとえ学術論文であっても容易に個人が特定されないように、症例の記載については十分に配慮しなければならない。ヘルシンキ宣言に違反していると判断された論文は採用されない。
6. 査読の結果または編集の都合により、原文の論旨を変えない範囲で著者に訂正を求めることがある。
7. 論文の内容については、著者が責任を負う。本誌に発表されたすべての論文の著作権は、著者（共同著者を含む）から日本腎・血液浄化 AI 学会に委譲されるものとする。これらを証するため、論文名、日付とともに、著作権を日本腎・血液浄化 AI 学会に委譲する由を記載し、代表著者が署名した用紙を論文に同封する。
8. 校正は初校のみ著者が行い、再校正以後は編集委員会において行う。校正は誤植の訂正程度にとどめ、版の組かえになってはならない。
9. 掲載料は無料とする。別刷は30部までは無料としそれ以上は著者の実費負担とする。
10. 掲載原稿（図表などを含む）は原則として返還しない。
11. 原稿執筆の要領は次のとおりとする。要領に合わない場合は著者に修正を求める。
  - (1) 論文の長さは、特集、原著および症例報告の場合、本文は4,000字以内（400字詰め原稿用紙10枚程度）、図表 6 枚以内とする。総説の長さは、その都度、委員会で決定する。
  - (2) 原稿は邦文とし、横書き、当用漢字、現代仮名使いを使用する word の使用を推奨する。
  - (3) 論文表題には英文タイトルとローマ字による著者名を併記する。英文タイトルは最初の文字のみを大文字とし、ローマ字の著者名には、M.D. をつけない。
  - (4) 論文には 5 個以内の Key Words をつける。
  - (5) 論文には最初に200字程度の要旨をつける。
  - (6) 図表は作表、作図ソフトウェアで作成し、本文とは別に、図のみのファイルと表のみのファイルを用意する。邦文の標題を図は下方に、表は上方につける。カラー写真は原則として著者の実費負担とする。
- (7) 図表の引用の場合は、その出典を明らかにする。
- (8) 外国人名、地名、薬品名は原語またはカタカナを用い、タイプまたは、明瞭な活字体とする。
- (9) 度量衡は CGS 単位とし、km, mm, L, dL, mL, kg, g, mg, mEq/L, mg/dL などを用い、数字は算用数字（1, 2, 3 など）を用いる。
- (10) 学会に既に発表している場合には、その旨を末尾に記載する。
- (11) 引用文献は、本文の引用箇所に順次番号を付し、本文の末尾に一括して、次の形式に従い引用順に記載する。
  - 1) 書籍は、著者名（3名までは全員記載、4名以上の時は3名まで記載し、以下は、「他」、または、「et al」として省略する）：論文名。書籍名；編者名、出版社名、所在地、頁（p 始め一終わり）、西暦年。の順に記載する。  
(例 1) 折田義正, 守山敏樹, 中浜 肇：利尿剤と電解質代謝。臨床腎臓病学；本田西男, 小磯謙吉, 黒川 清 編, 朝倉書店, 東京, p3-20, 1990。  
(例 2) Burkart, JM, Nolph, KD：Peritoneal dialysis. The Kidney；edited by Brenner, BM, Saunders, WB, Philadelphia, p2507, 1996。
  - 2) 雑誌は、著者名（3名までは全員記載、4名以上の時は3名まで記載し、以下は、「他」、または、「et al」として省略する）：論文名。雑誌名（略名）、巻；頁（始め一終わり）、西暦年。の順に記載する。  
(例 1) 大島研三：腎疾患の分類と臨床。日内会誌, 37；1043-1052, 1986。  
(例 2) 岸本武利, 仲谷達也, 山本啓介, 他：腎移植前後の患者ケア。阪透析会誌, 11；163-170, 1993。
  - 3) オンライン雑誌は、著者名（3名までは全員記載、4名以上の時は3名まで記載し、以下は、「他」、または、「et al」として省略する）：論文名。雑誌名（略名）、年。ウェブサイトアドレス。  
(例 1) Nakayama M, Sato T, Sato H, et al：Different clinical outcomes for cardiovascular events and mortality in chronic kidney disease according to underlying renal disease. Clin Exp Nephrol, 2010. <http://dx.doi.org/10.1007/s10157-010-0295-y>